

誰でも撮れる

きれいで規格性のある 口腔内写真

高田 光彦 著
高橋 規子



医歯薬出版株式会社

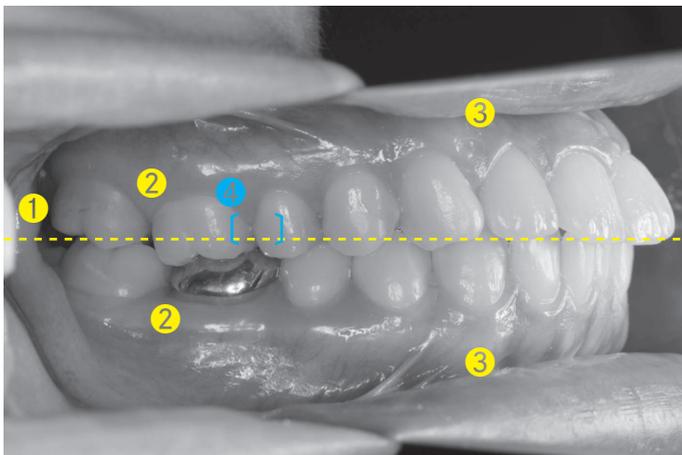
撮影の Point

- ① 9時の位置から撮影することで、構図作りが楽になり、体への負担も軽減する
- ② カメラを縦に構え、ミラー、患者の咬合平面を地面と垂直にする
- ③ チェアの位置を高くする
- ④ ミラーは把持部を横から3指で保持する
- ⑤ ミラーの反射面を口蓋に向けた状態で口腔内に挿入することで、反射面が唾液で汚れるのを防ぐ
- ⑥ ピントは[6]近心に合わせ、フォーカスロック機能を利用する



◎ 基本設定

撮影者の位置	9時
アシスタントの位置	12時
患者の頭位	・ 右に傾斜 ・ 咬合平面が地面と垂直
チェアの位置	高め
撮影倍率	1 : 3
用意する機材	・ 口角鉤1個 ・ 側方面観用ミラー



◎ 目指す写真

- ① 咬合平面が写真の中央で、水平線と平行になっている
- ② 大白歯の隣接面コンタクトポイントが確認できる
- ③ 前歯および最後方臼歯の歯頸部の状態が確認できる
- ④ ピントは[6]近心に合わせる

動画でわかる!



左側側方面観の撮影の流れ

右 QR コードより

動画をご覧いただけます



- 1 撮影者は12時から9時の位置へ移動し、アシスタントは3～5時から12時の位置へ移動する。その後、チェアの位置を高くする



- 2 ミラーの反射面を口蓋に向けた状態で、口腔内に挿入する



- 3 ミラーの裏面で頬粘膜を押し上げ、患者に咬合してもらった後、ミラーを左側に倒しながら歯列から離す



- 4 カメラを縦に構えて構図を確認し、ピントを調整して撮影

3. ミラーと咬合平面を地面と垂直にする

カメラを縦に構え、そのまま撮影者自身の正面にミラーを構えると、ミラーは自然に地面と垂直に位置することになる（図3参照）。この撮影者の“固有感覚”に基づいて作られるカメラとミラーの位置関係に患者の口腔内をもってくるイメージで、患者の咬合平面を

ミラーと平行に位置させると側方面観の構図は作りやすい。

したがって、縦に構えたカメラとミラー、咬合平面のすべてが地面と垂直になるようにするためには、チェアのヘッドレストを操作して頭位を設定する必要がある（図6, 7）。



図6 患者の咬合平面が地面と垂直になっていない場合

撮影者が固有感覚に基づいてミラーを地面と垂直に挿入してしまうと、側方面観がミラーに収まらなくなる。そこで、ミラーを咬合平面（黄線）と平行に挿入すると、撮影者は体軸（水色線）を斜めに歪めながらカメラを構えなければならず、撮影姿勢が安定しない



図7 患者の咬合平面を地面と垂直に設定した場合

咬合平面が地面と垂直になるように予めヘッドレストを調整しておき、固有感覚に基づいてミラーを地面と垂直に挿入すると、ミラーと咬合平面（黄線）が平行になり、体軸（水色線）を歪めることなく撮影が可能になり、安定して撮影ができる

STEP 2 ミラー操作

PHOTO

- ① ミラーは右側舌側面観の撮影と同様に、横から3指で保持する
- ② 撮影者は患者に「舌を右に動かして」と指示を出し、ミラーを舌と歯列の間に挿入する(図6)。その際、ミラーの反射面が舌や歯面に触れないように、

また挿入時に右側の下唇を巻き込まないように注意する必要がある(図7, 8)

- ③ 挿入後は、ミラーを右側方向に倒して54|または65|の辺縁隆線間に置いて支える

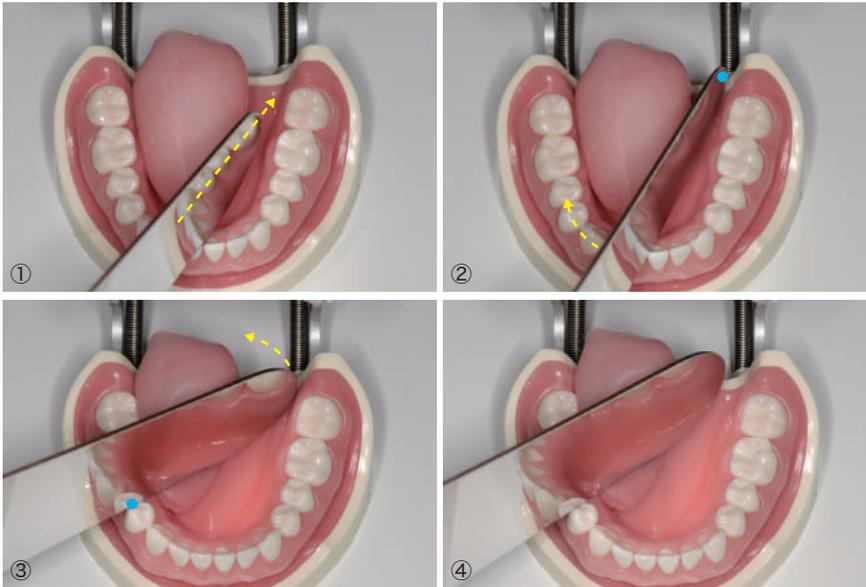


図6 ミラーの操作

①：ミラーを舌と歯列の間にまっすぐ挿入し、ミラー先端が7|のやや遠心まで達するようにする

②：ミラーを右側方向に倒して54|または65|の辺縁隆線間に置いて支える

③, ④：そこを支点にしてミラー先端を歯列から離す



図7 ミラー挿入時の下唇の排除1

右側の下唇を巻き込まないように、ミラーをもつ左手の薬指や小指を用いて下唇を排除しながら(黄線)、ミラーを歯列と舌の間に挿入していく。また、挿入時にミラーの反射面が舌や歯面に触れないようにする

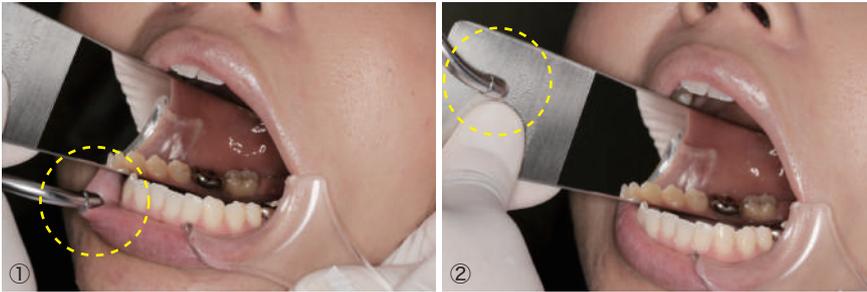


図8 ミラー挿入時の下唇の排除2

下唇を排除する方法は図7以外に、スリーウェイシリンジやデンタルミラーを用いて行う方法もある。ミラーを5-7間または6-8間に設置したら、スリーウェイシリンジをミラーの把持部付近に移動し、弱圧のエアを噴射して曇り防止と歯面の乾燥状態の維持を行う

STEP 3 患者の頭位

PHOTO

患者の頭位は正面よりやや左に傾けてもらう(図9)。正面を向いていると撮影者は患者の体の上に覆い被さるような姿勢になり、安定しない。そこで、頭位を左に傾けてもらうのだが、左に傾けると唾液が貯

留しやすくなる。そのため、ミラー挿入後の撮影姿勢が安定したタイミングで、患者に首を左に傾けてもらうのがよい。



図9 患者の頭位

×-1：患者が正面を向いている状態だと、撮影者の腰が斜めになり、姿勢が安定しない

×-2：ミラーを挿入すると、患者は首を右に傾け“逃げよう”とすることがある。首が右に向くことで、撮影者の姿勢はより不安定になる

○：患者にわずかに左方向を向いてもらうと、撮影者の姿勢は安定する